

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	あべの作業所（あべのキッズプナナ）		
○保護者評価実施期間	2026年2月2日		～ 2026年3月4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026年2月2日		～ 2026年3月4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 作業所（就労継続支援B型と生活介護）が同法人内にあり、児童から成人へとつながりを持った支援をできる。 児童期に同法人でグループホームにおいてショートステイの受け入れをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業所（就労継続支援B型と生活介護）と（花見・運動会・流しそうめん・避難訓練・もちつきなど）合同行事を実施し、児童が将来を見据えて活動できる機会をつくっている。 ショートステイの利用で、将来的な自立に向けての経験を積めるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習だけでなく、作業所体験などを低年齢のうちから取り入れ作業所に対する抵抗を少なくしたり、身近に感じられるように日常的に交流する機会をつくっていききたい。 保護者から離れた生活（ショートステイ）を通して、生活力の向上と自立につながるようグループホームの支援員との連携をさらに強化していききたい。

2	<ul style="list-style-type: none"> ・プールでの活動を多く取り入れ、基礎体力の向上を図っている。 ・電車での外出活動を多く取り入れ、いろいろな経験をたくさん積むことができるようにしている。 ・家庭では、あまり食さないおやつの提供をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プールで泳ぐことをメインとするのではなく歩くことをメインとし、体に負担をかけずに基礎体力の向上を図っている。(プールで1km~1.5km程度歩いている。) ・公共交通機関の利用で社会性を養い、また様々な場所を訪れる機会を作り、様々な世界を知り、自分の幅を広げることにつながっている。 ・咀嚼を必要とするおやつの提供で、唾液の分泌を促し、虫歯予防や消化器官、満腹感を向上させ、脳を活性化することにつながっている。また、好き嫌いをなくし、箸を積極的に使用することで巧緻性にもつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プールでの歩く距離を1.5kmに増やしたり、水中での簡単な体操やダンスを取り入れていきたい。 ・外出先の距離を伸ばし、より広範囲に出かけ、世界を広げることができるようにしていきたい。 ・栄養士と連携をとりながら、栄養面での充実を図っていきたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との交流をを多く取り入れている。 ・家族への丁寧な支援や対応をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での清掃活動、ハロウィンやクリスマスなどでのイベント活動を通して、挨拶に重点を置き、ふれあいを行っている。 ・保護者に寄り添いながら、送迎時も含めて保護者理解にも努め、相談も即時対応を心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市や区などの行政が主催する地域での活動にも積極的に参加していけるようにしていきたい。 ・保護者同士や兄弟も含めた家族参加型の行事を開催していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・生活・活動空間が狭く感じる点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1階と2階とに分かれている点 ・建物自体が古いため、柱が多く狭く感じる点 	<ul style="list-style-type: none"> ・1階、2階それぞれにスタッフを配置し、人数や活動の状況に応じて分かれて活動する。

2	<p>・放課後児童クラブや児童館との交流などの少なさ。</p>	<p>・放課後児童クラブや児童館と連携する機会が少ない。</p>	<p>・近隣の放課後児童クラブや児童館に積極的に働きかけ、公園などで一緒に遊んだり、活動したりする機会をつくっていく。</p>
3	<p>・専門的な療育（個別療育・言葉やコミュニケーション）へのアプローチの不足。</p>	<p>・言語聴覚士や作業療法士など専門的な知識を持った支援者とのかかわりが少ないため。</p>	<p>・言語聴覚士や作業療法士など専門的な知識を持った支援者を定期的に訪問してもらう機会をつくったり、研修などで事業所の児童に対してのアドバイスをもらい、実践していく。</p>